

作業学習学習指導案

指導者 広島県立尾道特別支援学校
教諭 妹尾 千津 (T1)
教諭 中重 江喜 (T2)

- 1 日 時 令和5年12月15日(金) 第3校時
- 2 学 級 知的障害部門 中学部 第2・3学年 A2グループ(計5名)
- 3 場 所 南館1階加工室
- 4 題材名 「紙すき」
～喜んでもらえる製品作りをめざして、紙すき作業をしよう～

5 題材設定の理由

(1) 生徒観

知的障害部門中学部単一障害教育課程では、第1学年時に、作業学習を各学級で行うことで複数の作業種を経験し、第2・3学年時に、生徒の実態やグループとしてのまとまり等を勘案して縦割りグループを構成して作業学習を進めている。第1学年で週2日、計5時間の作業学習を経験しているため、第2学年では作業服に着替えることや、授業の始めと終わりに作業日誌を書くこと等、作業学習の流れを理解して参加することができている。本グループは、第2・3学年の縦割り4グループのうちの一つのグループで、2年生2名、3年生3名の計5名の生徒が所属している。

本グループの生徒は、全員言葉でのコミュニケーションが可能で、口頭での説明で概ね理解できているが、分からない時や困った時に自分から言い出しにくかったり、不安感が強くみんなの前での作業に気後れしてしまったりするという個々の課題を抱えている。

作業面では、工程を理解して概ね手順どおりに作業することや、教師の指定した時間(30分程度)を集中して作業を続けることができる生徒が多い。しかし、タオルや台紙をしっかりと押さえたり、柔らかいバブルをそっと持ち上げたりする等の力加減の調節が必要な工程では、苦手さを抱えている生徒もいる。また、自分の作業が製品の仕上がり具合に直結するという意識が弱いいためか「もっとこうしたらきれいにできるよ。」という教師の言葉掛けを受け入れようとする気持ちが薄く、作業工程の順番どおりに作業できれば振り返り時には「できた。」と自己評価し、出来映えには気持ちが向いていないと感じる場面も多くある。

生徒Aは、教師の全体説明を聞いて理解し、作業に取り組むことができ、紙すきの作業の流れも概ね理解しているが、手先の細かい作業は難しい。時にふざけて、教師の説明と異なることをすることもあり、意欲をそがないようにして、本来の工程に戻すようにしている。

生徒Bは、手先の細かい作業は苦手であるが、ゆっくり丁寧に作業に取り組むことができる。分からない時に言い出しにくく、自分のやり方を修正するよう指摘されると不機嫌になるので、相談するよう促したり、定めたやり方との違いを説明したりしている。

生徒Cは、不安感が強く、順番にみんなの前で作業するような場合は、教師と一緒に部分的に活動することが多い。特に、慣れないことや初めてのことは取り組みにくいいため、不安感を少しずつ軽くすることを目指している。

生徒Dは、授業への参加が難しいが、手指の巧緻性も高く、完成度の高い作業を行おうという気持ちをもっている。

生徒Eは、手指の巧緻性が高く、提示された内容は教師の説明どおりにできることが多いが、時折、部分的に工程を忘れたり、道具や材料を雑に扱ったりすることがあるので、注意深く見ていく必要がある。

2・3年生の縦割りグループであることから、2年生は、3年生の活動の様子や製作物の完成度を見て、見通しをもったり手本にしたりしている。紙すき以外の作業でも、先輩の作業している様子を見て参考にしたり「やってみよう。」という意欲につながったりする等、よい影響を受けている。3年生は、先輩として、準備や片付けでは、率先して動くことや、後輩よりも多くの作業を引き受けることを納得しており、縦割りグループで行うことで、学び合う姿が見られている。

授業の終わりに作業日誌に自分の振り返りを書いた後、グループの誰かから一言書いてもらっているが、生徒達は友だちへの評価を、「がんばってたね。」「上手だったよ。」と肯定的に記入しており、生徒同士の人間関係は良好である。

(2) 題材観

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）において、作業学習は、「作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。」と示され、さらに、「作業学習の成果を直接、児童生徒の将来の進路等に直結させることよりも、児童生徒の働く意欲を培いながら、将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要である。」と記述されている。特定の職業に就くためではなく、作業することに充実感を感じたり、他者の役に立つ喜びを実感したりすることができ、その先に働く生活があることを伝えたいと考える。

本題材では、「職業・家庭」職業分野1段階A職業生活A働くことの意義（ア）「働くことの目的などを知ること。」イ職業（ア）⑦「職業生活に必要な知識や技能について知ること。」⑤「作業課題が分かり、使用する道具等の扱いに慣れること。」④「作業の持続性や巧緻性を身に付けること。」（イ）⑦「職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。」2段階A職業生活イ職業（ア）⑦「職業生活に必要な知識や技能を理解すること。」⑤「作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。」④「作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。」を取り扱う。

本題材では、紙すきによりハガキ大の紙を製品化する作業を設定した。この題材は、次の4点から、作業学習に適した内容であると考えている。

- ・ 紙すき作業は、「牛乳パックのビニールをはがす」「紙をちぎる」「ミキサーにかける」「紙をすく」「仕上げ」等の工程に分かれており、一人で全て行うことも、分担することも可能である。また、その日の作業として、特定の工程を部分的に取り上げることも可能で、授業として提示しやすく、不安が強かったり、参加しにくかったりする生徒にとって、実態に合った作業を設定しやすい。
- ・ ハガキ大の木枠を扱ったり、柔らかいソールプを手を持って移動させたりする等の手先を使う作業があり、手指の巧緻性を養う工程がある。
- ・ すいた紙の厚みの均質さや形の正確さ等、作業の完成度が生徒にとって比較的分かりやすい。
- ・ すいた紙にステンシルをしたり、シールを貼ったりする、数枚を綴じて冊子にする等、すいた紙の価値を高める仕上げの作業を設定することができる。

また、紙すき作業の全工程を経験した後は、「ミキサーにかける」→「紙をすく」→「仕上げ」の作業を中心に作業学習を行い、よりきれいな仕上がりを目指すことができる。

そして、作業学習で作った紙を届けた先に喜んでくれる人がいることを伝え、「紙すきの製品をより丁寧にきれいに つくる」ことが、充実感や他者の喜びにつながることを感じることができ、それが、将来の「働く生活」と関連があることに気付くことができる題材であると考えている。

(3) 指導観

本校では、「目標をもって学習に取り組む力の向上を目指した授業づくり～導入時の実態に応じた『しかけ』の工夫を通して～」を研究テーマとしている。指導に当たり、作業工程ごとの具体的な目標を自分で選べるように目標リストを提示する。本時の自分の目標を自分で設定することで、その時間がんばることを意識して取り組むことができると考える。生徒が目標設定することに関わる目標は、8（2）「個別の目標」表の、各自三つある目標のうちの、1番目と3番目に当たる。

また、本題材では、紙すきの全工程に、全員に通底する目標として、受け取った人に喜んでもらえるようなより良質の製品作りを目指して「丁寧に作業する。」ということを生徒に伝えている。「丁寧」という言葉は抽象的であるため、教師が実際にやって見せて良い例と悪い例を比較させることで、「よく見て（作業する）。」「集中して（作業する）。」「急がないでゆっくり（作業する）。」「しっかり押さえて、そっとさわって（作業する）。」「きれいにできていないと思ったら、やり直す（次は気を付ける）。」と設定している。「丁寧に作業する」と「作業工程ごとの具体的な目標」は、はっきり切り分けられるものではないが、目標リストでは、毎時間大切にすることとして「丁寧に作業する。」ことを示し、目標の選択項目から外している。

教師からの各生徒の目標を、8（2）「個別の目標」表の2番目の目標に設定しているが、これは、主に、作業に丁寧に組み立てているか、気持ちを整えて作業に臨んでいるか、という視点から設定している。

目標設定にあたっては、しかけ項目の中の「選択肢をつくる」「比較させる」を使用する。

そして、授業の振り返り時は、自己評価とともに、友だちからの評価をもらうこととし、自分も友だちの作業の様子を見て評価する役割があると意識することや、ともに同じ作業に取り組んでいるという気持ちの通い合いを得てほしいと考えている。

作業工程を円滑に進めていくために次のことに留意する。

- 理解への支援

- ・ 目標と作業内容を示して、見通しがもてるようにする。
 - ・ 作業工程を視覚的に提示し、作業中にも確認できるようにする。
 - ・ 見通しをもって作業ができるように、作業時間やミキサーをかける時間等でタイマーを使用する。
- 作業への支援
- ・ ミキサーかけや紙すき作業の順番を待つ時間がある場合は、ビニールをはがしたり、紙をちぎったりする作業を設定し、作業活動の途切れを無くす。
 - ・ ミキサーをかける机、紙すきをする机、仕上げをする机等を分けるなど教室内の構造化を図り、作業の見通しがもてるようにする。

6 題材の目標

- はがき作りや仕上げ作業で使用する道具の扱いに慣れ、手順どおりに丁寧に作業ができる。(知・技)
- 自分で目標設定し、目標達成のために気を付けたらよいことを意識して作業したり、適切に自己評価したりすることができる。(思・判・表)
- 将来の職業生活に関心を持ち、人に喜んでもらうことの喜びや、そのために質を上げることの大切さに気付き、活動に生かそうとする。(学)

7 題材計画 (全 17 時間 本時 13/17 時間) (別紙参照)

- * 手工芸②25.2時間のうちの8.2時間は、エプロン作りを行う。
- * 表現上、紙すき作業を、はがき作り作業と仕上げ作業(ステンシルや袋作り等)に分けて記述している。
- * 前期の単元、手工芸①で、仕上げ作業以外の、はがき作り作業の工程は、一通り経験している。

次	時間	学習活動	評価			
			知・技	思・判・表	主	評価規準
1	1	作業学習の意義を知る。	○	◎		作業学習に必要な力を理解している。
2	(本時 12/14)	・ はがき作り作業及び仕上げ作業に取り組む。 ・ 目標を意識して、作業に取り組む。 ・ 毎時の振り返りを行う。	◎	○		・ はがき作り作業及び仕上げ作業の道具や工程を理解して、作業に取り組んでいる。 ・ 全体の目標(丁寧さ)と個別の目標を意識して作業している。 ・ 目標について自己評価している。
3	2	働くことの意義を知る。 ・ 製品の出来栄や教職員等からの評価を振り返る。 ・ 作業学習と職業生活の共通点を知る。		○	◎	・ 振り返って、達成感や満足感等の肯定的な感想を表現している。 ・ 人に喜んでもらうことの喜びや、そのために質を上げることの大切さに気付き、今後どうしたらよいか考えようとしている。

◎：重点をおく評価観点

8 本時の目標

(1) 全体の目標

- ・ はがき作り作業と仕上げ作業の工程を理解して、丁寧に取り組むことができる。(知・技)
- ・ 自分の目標をリストから選択して設定し、作業後に目標に関して振り返りを行うことができる。(思・判・表)

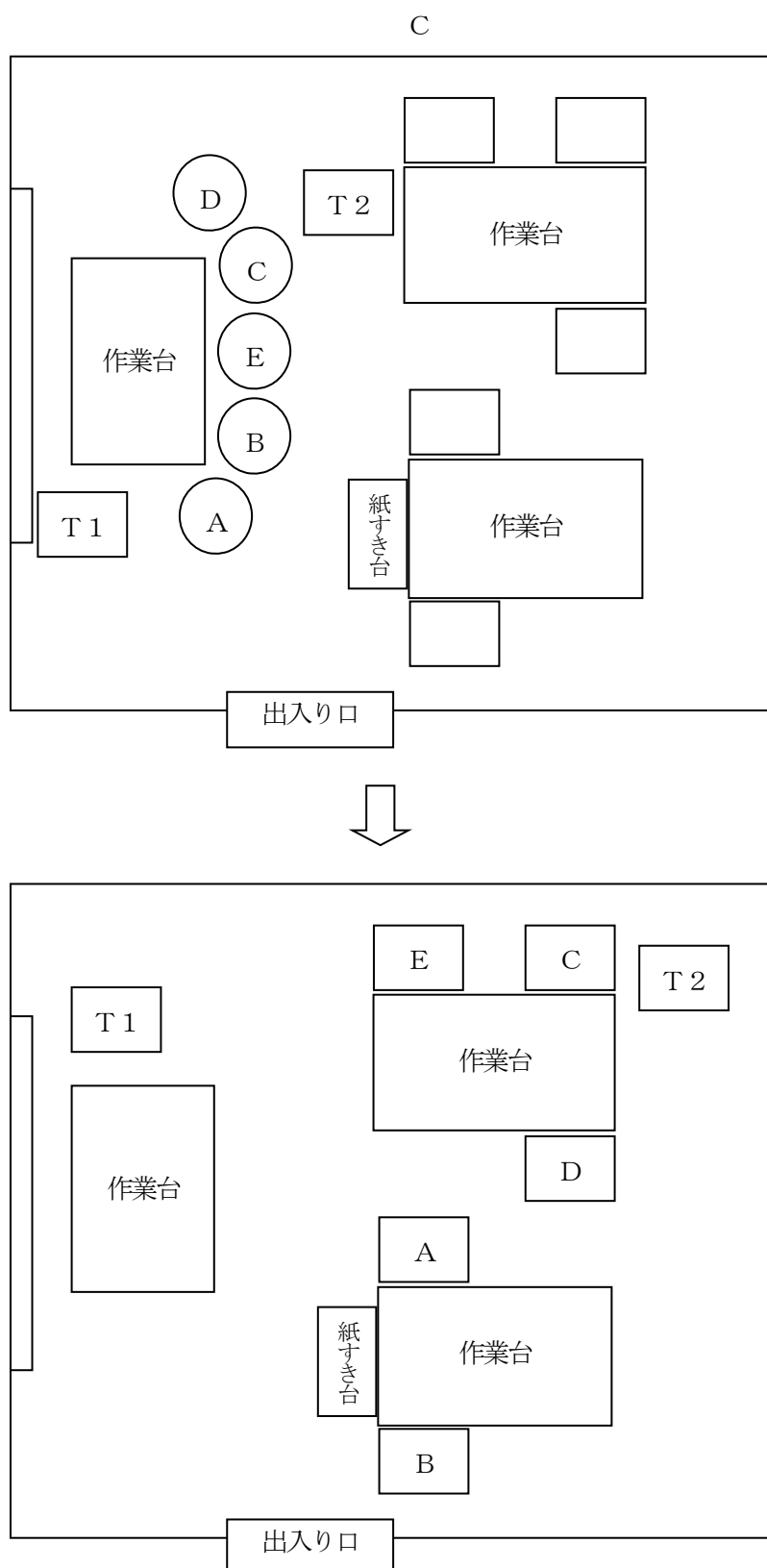
(2) 個別の目標 (別紙参照)

9 準備物

はがき作りの道具(木枠、パルプ、タオル、ボード等)、ステンシルの道具(シート、台紙、染料、筆等)
作業日誌、筆記用具、タイマー、目標リスト

10 学習過程 (別紙参照)

11 教室内配置図



12 授業評価の観点

- 導入において実態把握を的確に踏まえたしかけを工夫することにより、課題をつかませることができていたか。

8 本時の目標

(2) 個別の目標

生徒	これまでの様子	個別の目標	評価基準
A	【学習の程度】 ・ 中学部第2学年 ・ 教師の全体説明を聞いて理解し、作業に取り組むことができるが、疲れやすく、集中力が途切れることがある。 ・ 手先の細かい作業は難しい。 ・ 紙すき作業の流れは概ねつかんでいるが、質の高い物を作ろうという意識はまだ低い。 ・ 文章表現することを好み、自分の振り返りや友だちへの言葉等、詳しく書くことができることが多い。 【活動の様子】 ・ 時にふざけて、教師の説明と異なることをすることがある。 ・ 指摘されると不機嫌になりやすく、その後の活動に時間がかかることがある。 ・ 目標リストの言葉を理解した上で、自分の言葉に置き換えて記入することができる。 ・ 振り返りでは、印象に残ったことを詳しく書くことができるが、目標と整合していなかったり、目標に関しては「できた。」ことにしてしまったりすることがある。	・ 目標リストから選んだ言葉を、自分で考えた言葉に替えて表現できる。(思・判・表) ・ すだれをゆっくりはがし、パルプをやさしく扱うことができる。(知・技) ・ 目標が達成できたかどうか、理由あるいは状況を加えて、作業日誌に書くことができる。(思・判・表) (「職業・家庭」職業分野1段階)	A：本時設定した目標について、選んだ理由や気持ちを言える。 B：目標リストから選んだ言葉を、自分で考えた言葉に替えて表現できる。 C：目標リストから目標を選んで記入できる。 A：道具やパルプをゆっくりやさしく扱い、しわになったらやり直すことができる。 B：すだれをゆっくりはがし、パルプをやさしく扱うことができる。 C：すだれをゆっくりはがすことができる。 A：目標が達成できたかどうかに加えて、次にどうしたいかも書くことができる。 B：目標が達成できたかどうか、理由あるいは状況を加えて作業日誌に書くことができる。 C：目標が達成できたかどうかについて、記入できる。
B	【学習の程度】 ・ 中学部第2学年 ・ 教師の全体説明を聞いて理解し、一定時間作業に取り組むことができる。 ・ 手先の細かい作業は難しい。 ・ 紙すき作業の流れは概ねつかんでいるが、質の高い物を作ろうという意識はまだ低い。 【活動の様子】 ・ ゆっくり丁寧な作業ができる。 ・ 分からない時に、言い出しにくく、自分のやり方でやろうとする。言葉掛けをすると不機嫌になり、教師の助言を聞き入れにくい。 ・ 学習の目標を概ね理解して作業する様子が見られるが、振り返りの言葉は「楽しかった。」と書くことが多い。	・ 目標リストを見て、本時の目標を選ぶことができる。(思・判・表) ・ しわや欠ける所が無いように、パルプをやさしく扱って作業できる。(知・技) ・ 目標が達成できたかどうかについて、作業日誌に書くことができる。(思・判・表) (「職業・家庭」職業分野1段階)	A：前回の目標と見比べて、本時の目標を選ぶことができる。 B：目標リストを見て、本時の目標を選ぶことができる。 C：教師と相談しながら、目標リストから選ぶことができる。 A：パルプをやさしく扱い、しわや欠ける所があったら、相談したり、やり直したりすることができる。 B：しわや欠ける所が無いように、パルプをやさしく扱って作業できる。 C：しわや欠ける所は気にしていないが、工程通りに紙すき作業ができる。 A：「〇〇できたから」等、理由あるいは状況を加えて書くことができる。 B：目標が達成できたかどうかについて、作業日誌に書くことができる。 C：本時取り組んだ作業内容について、書くことができる。
C	【学習の程度】 ・ 中学部第3学年 ・ 話の理解度や手指の巧緻性が高く、折り紙や軽作業等に取り組むことができた場合は、スピーディーに高品質のものを仕上げるができる。	・ 教師の促しにより、目標リストから目標を選ぶことができる。(思・判・表)	A：目標リストから、自分で目標を選ぶことができる。 B：教師の促しにより、目標リストから目標を選ぶことができる。 C：教師の勧める目標に、うなづくことができる。

	【活動の様子】 - 不安感が強く、順番にみんなの前でするような作業は参加が難しい。特に、慣れないことや初めてのことは取り組みにくく、同じ絵をたくさん描いたり、教師に話し掛けたりして不安感を紛らわそうとする。 - 教師の促しを受けて、部分的に小さな目標を立てることができることもあり、それに向けて頑張れる時もある。 - 振り返りでは、本時取り組んだことを書くこともできることもある。また、「次（の時間）はこうする。」ということもあり、“気持ちを整え乗り越えたい。”という気持ちをもっている。	- 手元をよく見て、シートをしっかりと押さえて、ステンシルで、一枚着色することができる。（知・技） - 本時取り組んだ作業内容を、作業日誌に書くことができる。（思・判・表） （「職業・家庭」職業分野2段階）	A：手元をよく見て、シートをしっかりと押さえて、ステンシルで、複数枚着色することができる。 B：手元をよく見て、シートをしっかりと押さえて、ステンシルで、一枚着色することができる。 C：ステンシルの筆を持ち、教師と一緒に一枚着色することができる。 A：本時の目標が達成できたかどうか書くことができる。 B：本時取り組んだ作業内容を、作業日誌に書くことができる。 C：教師の個別の評価にうなづくことができる。
D	【学習の程度】 - 中学部第3学年 - 教材の扱い方を理解し、手指の巧緻性も高く、折り紙やボルト等の軽作業では完成度の高い作業を行うことができる。 - 気持ちが整えば、接客練習等のコミュニケーション力を求められる場面でも、指導書の通りに行うことができる。 【活動の様子】 - 授業への参加が難しい。 - 同級生と関わるが多く、他学年の生徒とはあまり話すことができない。 - 折り紙やボルト等の軽作業では、集中して細かい点にも注意を払って、完成度の高い作業を行うことができる。	- 教師の促しにより、目標リストから目標を選ぶことができる。（思・判・表） - 決まった位置にシールやラベルを貼り、2セットのはがきの袋詰めができる。（知・技） - 本時取り組んだ内容を、作業日誌に書くことができる。（思・判・表） （「職業・家庭」職業分野2段階）	A：目標リストから、自分で目標を選ぶことができる。 B：教師の促しにより、目標リストから目標を選ぶことができる。 C：教師の勧める目標に、うなづくことができる。 A：Bの形の物を10セット作ることができる。 B：決まった位置にシールやラベルを貼り、2セットのはがきの袋詰めができる。 C：教師と一緒に、袋作りや袋詰めができる。 A：本時の目標が達成できたかどうか書くことができる。 B：本時取り組んだ内容を、作業日誌に書くことができる。 C：教師の個別の評価を聞くことができる。
E	【学習の程度】 - 中学部第3学年 - 紙すき作業の工程を概ね理解し、ほぼ工程通りに作業時間いっぱい作業を続けることができる。 - 手指の巧緻性が高く、他生徒より質の高い製品を作ることができるが、よりきれいに作ろうという意識はまだ低い。 【活動の様子】 - 全体を見て、自分の役割を理解し、準備や片付け等の追加を頼むと応じている。 - 時折、道具や材料を雑に扱うことがある。 - 自分で目標を選択し、目標を意識して、取り組む様子が見られる。振り返りでは、自分ががんばった点を書くことができるが、目標と整合していないこともある。	- 目標リストを参考に、目標を複数にするか等を考えて記入できる。（思・判・表） - よく見て、しっかりと押さえて型の隅まで、ステンシルで着色できる。（知・技） - 目標が達成できたかどうか、理由あるいは状況を加えて、作業日誌に書くことができる。（思・判・表） （「職業・家庭」職業分野2段階）	A：前回の目標と見比べて、同じにするか、変えるか、複数にするか等を考えて記入することができる。 B：目標リストを参考に、目標を複数にするか等を考えて記入できる。 C：目標リストから目標を選んで記入することができる。 A：Bに加え、にじまないように気を付けて、適度な濃さで止めることに気を配ることができる。 B：よく見て、しっかりと押さえて、型の隅まで、ステンシルで着色できる。 C：よく見て、しっかりと押さえて、ステンシルで着色できる。 A：目標が達成できたかどうかに加えて、次にどうしたいかも書くことができる。 B：目標が達成できたかどうか、理由あるいは状況を加えて、作業日誌に書くことができる。 C：目標が達成できたかどうかについて、記入できる。

10 学習過程

学習活動	指導上の留意事項（ 課題 、○支援・手立て等、☆評価） ※ 導入時の課題をつかませるための手立ては◎で記入する。					全体における留意点
	A	B	C	D	E	
1 挨拶をする。 (1分)						○ 背筋を伸ばして挨拶ができているか確認する。(T1・T2) ○ 全体を通して、T2は、見守り支援（特に生徒C、生徒D）を行う。 ○ 校内の先生からのビデオレターを見ることで、全体の目標である「丁寧に作業する」ことの必要性を具体的に理解させ、意欲をもたせる。 ◎ 目標リストの選択肢を示して、目標設定しやすくする。 ◎ 前回自分が立てた目標と比較させて、本時の目標を考えさせる。
2 本時の内容と全体の目標を確認する。(1分)	本時の内容（はがき作りと仕上げ）を知り、全体の目標（丁寧に作業する）を確認する。					
3 個別の目標を決める。(7分)	目標リストから選んだ言葉を、自分で考えた言葉に替えて表現できる。 ○ どのように表現するか見守る。 ☆ 目標リストから選んだ言葉を、自分で考えた言葉に替えて表現できたか。	目標リストを見て、本時の目標を選ぶことができる。 ○ 前回と比べさせて、考えさせる。 ☆ 目標リストを見て、本時の目標を選ぶことができたか。	教師の促しにより、目標リストから目標を選ぶことができる。 ○ 迷っていたら、目標リストの項目を指差してやり取りしながら、選択するのを待つ。 ☆ 教師の促しにより、目標リストから目標を選ぶことができたか。	教師の促しにより、目標リストから目標を選ぶことができる。 ○ 目標リストの項目を指さしてやり取りしながら、選択するのを待つ。 ☆ 教師の促しにより、目標リストから目標を選ぶことができたか。	目標リストを参考に、目標を複数にするか等を考えて記入できる。 ○ 前回の目標と比べさせて、考えさせる。 ☆ 目標リストを参考に、目標を複数にするか等を考えて記入できたか。	
4 作業をする。 (30分)	各自の目標を全体で共有する。					○ 後で他生徒の評価をするため、全体で共有して、他生徒の目標も確認させておく。 ○ 活動場所の環境設定をして、すぐに取り組めるようにする。 ○ 作業机の上の構造化（作成したはがきを置く枠を用意）を図り、作業の量や活動内容が見える化して、安心して取り組みるようにする。
	はがき作り作業をする。		ステンシルをする。 はんこを貼る。	はんこシールをはがきに貼り、袋作り・袋詰めをする。	ステンシルをする。 はんこを貼る。	
	すだれをゆっくりはがし、パルプをやさしく扱うことができる。 ○ パルプを手で持って移動させる距離が短くなるような位置にボードを置く。	しわや欠ける所が無いように、パルプをやさしく扱って作業できる。 ○ 焦らずにすむように木枠を二つ用意し、もう一人の生徒の待ち時間を少なくする。	手元をよく見て、シートをしっかり押さえて、ステンシルで、一枚着色することができる。 ○ なるべくはがきやステンシルのシートがずれないように、台紙を用意する。	決まった位置にシールやラベルを貼り2セットのはがきの袋詰めができる。 ○ 袋の見本と袋詰めした物の見本を示すことで、見通しをもたせ安心できるようにする。	よく見て、しっかり押さえて型の隅まで、ステンシルで着色できる。 ○ はがきやステンシルのシートがずれないように、台紙を用意する。	

5 作業日誌を書く。(8分)	☆ すだれをゆっくりはがし、パルプをやさしく扱うことができたか。 目標が達成できたかどうか、理由あるいは状況を加えて、作業日誌に書くことができる。 ○ 全体に向けて目標について記述するよう促し、教師から評価の言葉を個別に書くこと示すことで、目標への意識が高まるようにする。 ☆ 目標が達成できたかどうか、理由あるいは状況を加えて、作業日誌に書くことができたか。	☆ しわや欠ける所が無いように、パルプをやさしく扱って作業できたか。 目標が達成できたかどうかについて、作業日誌に書くことができる。 ○ 目標に注目するよう全体に向けて指摘することで、自分が立てた目標に関して振り返れるようにする。 ☆ 目標が達成できたかどうかについて、作業日誌に書くことができたか。	☆ 手元をよく見て、シートをしっかりと押さえて、ステンシルで、一枚着色することができたか。 本時取り組んだ作業内容を、作業日誌に書くことができる。 ○ 参加できたかどうかを指標とし、肯定的に評価することで、次回はこうしてみようと言えるようにする。 ☆ 本時取り組んだ作業内容を、作業日誌に書くことができたか。	☆ 決まった位置にシールやラベルを貼り、2セットのはがきの袋詰めができたか。 本時取り組んだ作業内容を、作業日誌に書くことができる。 ○ 参加できたかどうかを指標とし、肯定的に評価することで、次も参加しようと思えるようにする。 ☆ 本時取り組んだ作業内容を、作業日誌に書くことができたか。	☆ よく見て、しっかり押さえて型の隅まで、ステンシルで着色できたか。 目標が達成できたかどうか、理由あるいは状況を加えて、作業日誌に書くことができる。 ○ 全体に向けて目標について記述するよう促し、教師からの評価の言葉を個別に書くこと示すことで、目標への意識が高まるようにする。 ☆ 目標が達成できたかどうか、理由あるいは状況を加えて、作業日誌に書くことができたか。	○ 自分の立てた目標に注目させ、目標に対しての振り返りを書くように促す。 ○ 友だちからの評価、教師からの評価も得ることで、目標の振り返りであることを、より意識できるようにする。
6 全体の振り返りをする (2分)	本時の成果物を見て、各生徒が丁寧に取り組んだポイントとその結果を共有する。					○ すいたはがき、ステンシル、袋詰めした物を見せることで、達成感を感じられるようにする。
7 挨拶をする。(1分)						○ 背筋を伸ばして挨拶ができているか確認する。(T1・T2)